

■緊張が引き起こす「笑い」

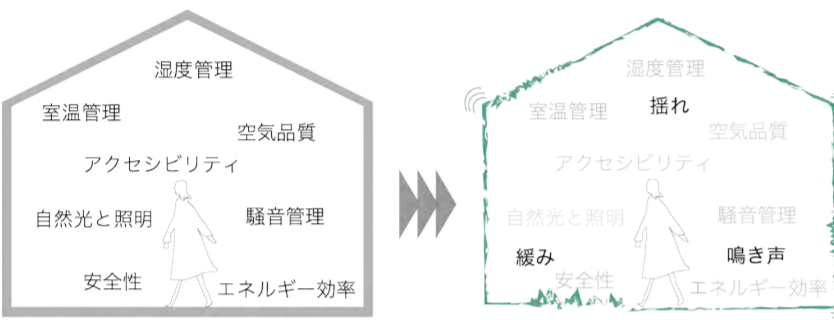
ストレスや緊張が高まった状態で笑いが起こる。これは笑いが緊張の解消手段として働くのであって、緊張を和らげリラックスさせる効果がある。私たちは日常で直面する緊張を和らげることによって笑みをこぼしている。

笑い = [緊張] × [緩和]

人間はストレス（緊張）を解消しようとして笑う
住宅はテンション（緊張）を解消しようとして笑う

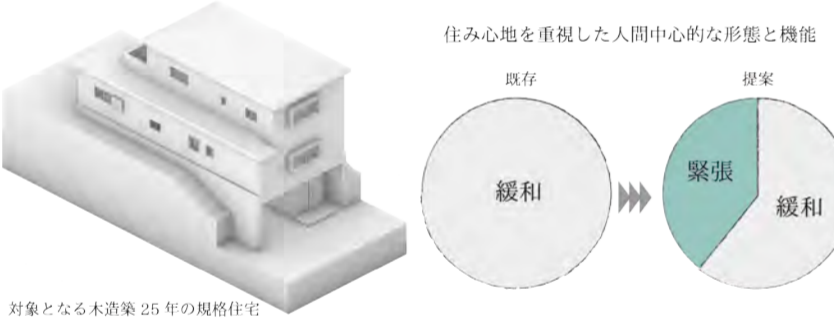
■住宅における緊張と緩和

そこで「笑う家」とは住宅に必要とされる緩和に、緊張を加えることで成り立つと考えた。つまり、人間が求める緩和で出来上がった形態に建築としての緊張を付加することで、住宅自体が緊張と緩和を有して住民の暮らしを受け入れることとなる。



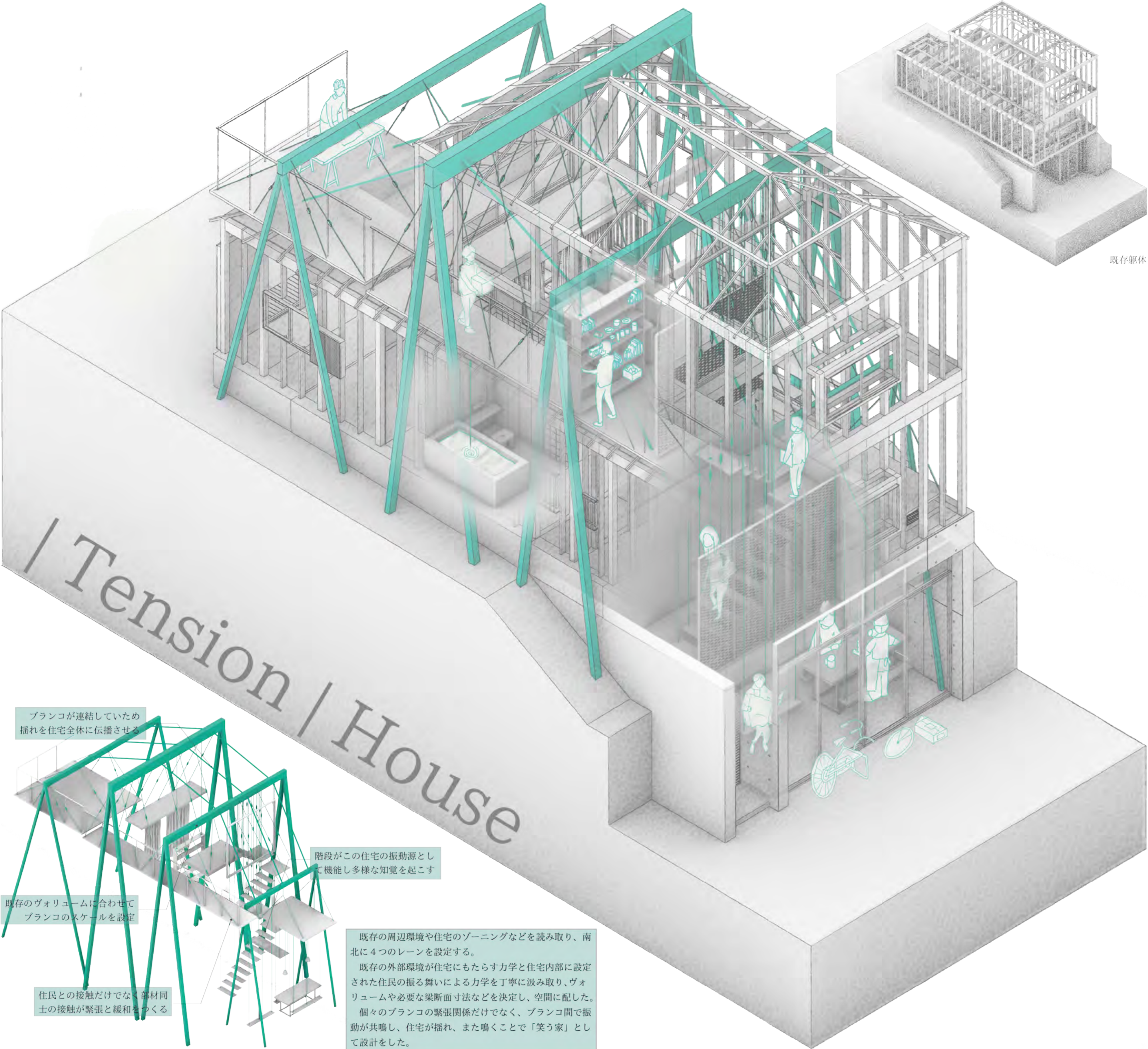
■規格住宅へ緊張を付加

現代の過度な緩和を実現している規格住宅を本提案の対象とし、改修を行う。緩和主体で構築された住宅の形態に緊張が生じるような要素を挿入し、人で言うところのストレス、建築でいうテンションを与え、住宅全体に緊張が伝播していく操作を加えることで住宅が生きているかのように知覚させる。



■ブランコ

既存に適度な緊張を与えるためにブランコ型の構造体を挿入する。地面に接する安心さではなく、揺れ動く部材が住宅を形作る。常にテンションのかかったケーブルがヒトとモノの衝突を伝播させ、モノとモノによって生まれる揺れが音や陰影などを住宅内に表す。

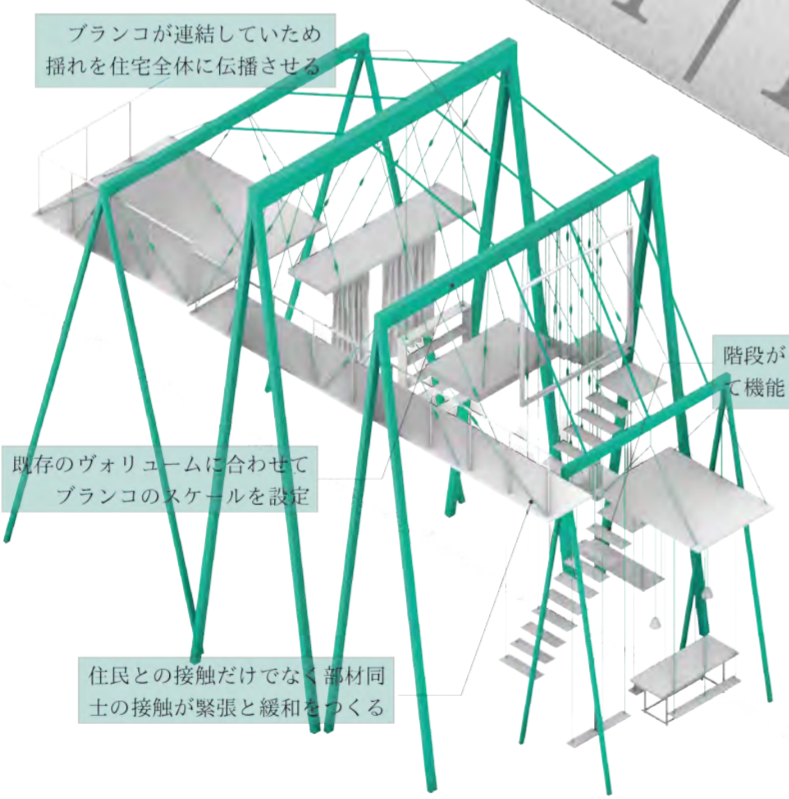
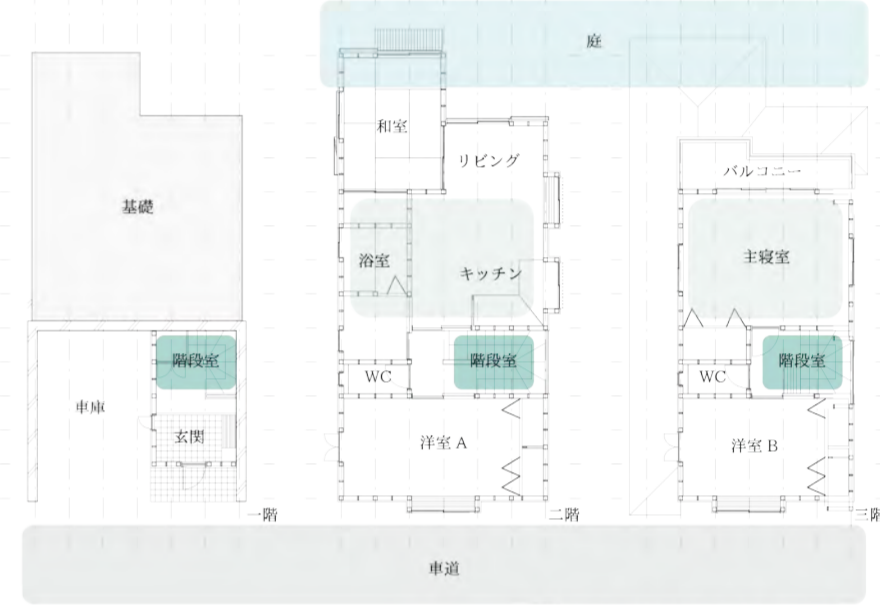


■対象敷地

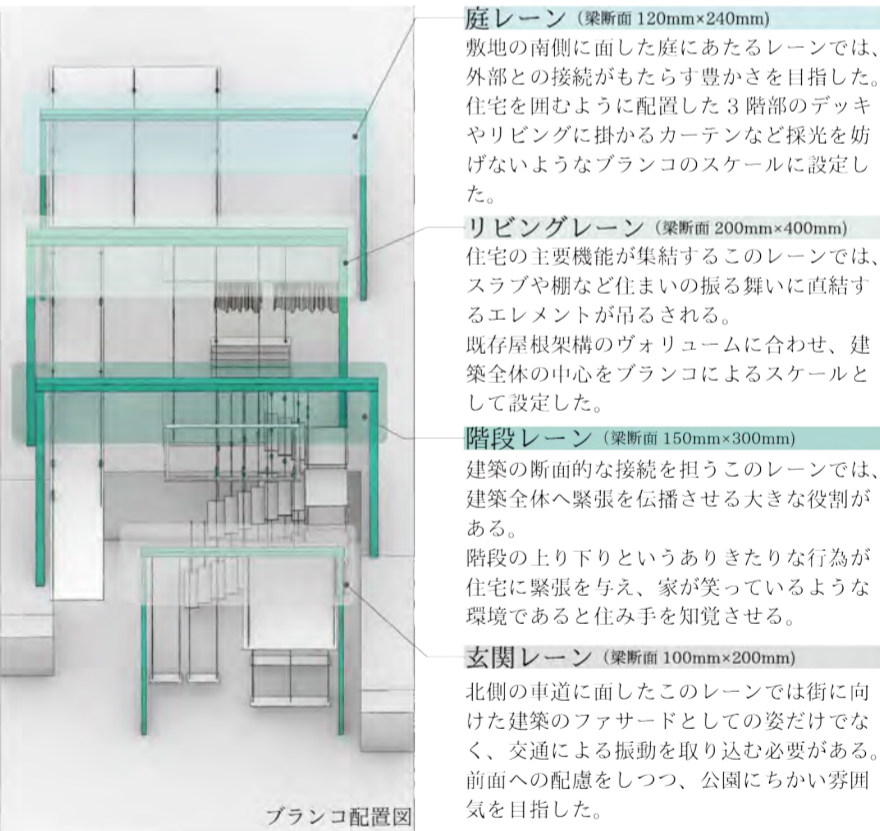


対象となる既存住宅は神奈川県横浜市の閑静な住宅街に位置する。築25年の木造一部鉄筋コンクリート造で三階建ての住宅である。敷地は北側に道路、南に向かって傾斜があり、図のような建ち現れ方をしている。

■既存の読み取り



既存の周辺環境や住宅のゾーニングなどを読み取り、南北に4つのレーンを設定する。既存の外部環境が住宅にもたらす力学と住宅内部に設定された住民の振る舞いによる力学を丁寧に汲み取り、ヴォリュームや必要な梁断面寸法などを決定し、空間に配した。個々のブランコの緊張関係だけでなく、ブランコ間で振動が共鳴し、住宅が揺れ、また鳴くことで「笑う家」として設計をした。



庭レーン (梁断面 120mm×240mm)
敷地の南側に面した庭にあたるレーンでは、外部との接続がもたらす豊かさを目指した。住宅を囲むように配置した3階部のデッキやリビングに掛かるカーテンなど採光を妨げないようにブランコのスケールを設定した。

リビングレーン (梁断面 200mm×400mm)
住宅の主要機能が集結するこのレーンでは、スラブや棚など住まいの振る舞いに直結するエレメントが吊るされる。既存屋根架材のヴォリュームに合わせ、建築全体の中心をブランコによるスケールとして設定した。

階段レーン (梁断面 150mm×300mm)
建築の断面的な接続を担うこのレーンでは、建築全体へ緊張を伝播させる大きな役割がある。階段の上り下りというありきたりな行為が住宅に緊張を与え、家が笑っているような環境であると住み手を知覚させる。

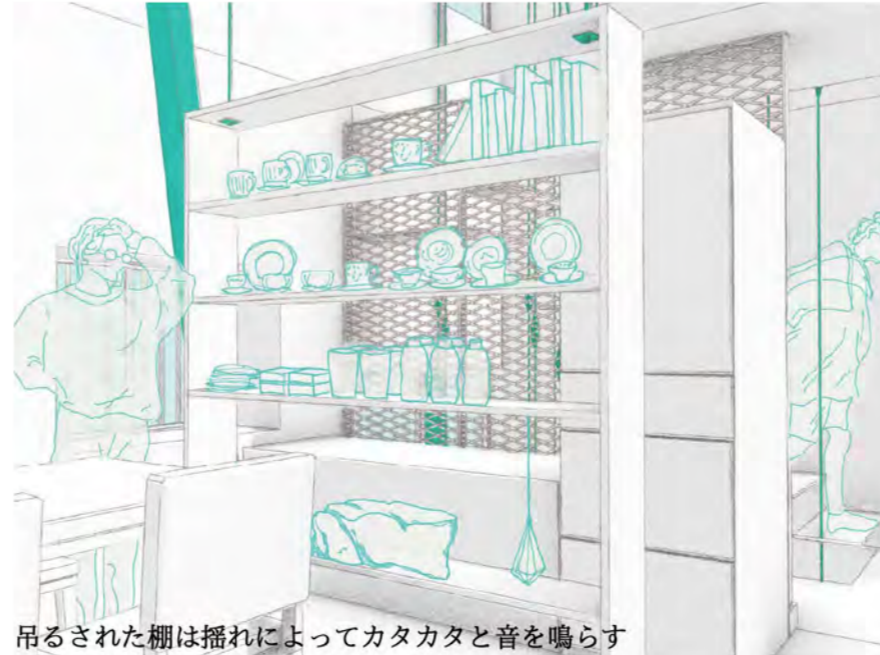
玄関レーン (梁断面 100mm×200mm)
北側の車道に面したこのレーンでは街に向けた建築のファサードとしての姿だけでなく、交通による振動を取り込む必要がある。前面への配慮をしつつ、公園にちかい雰囲気を目指した。



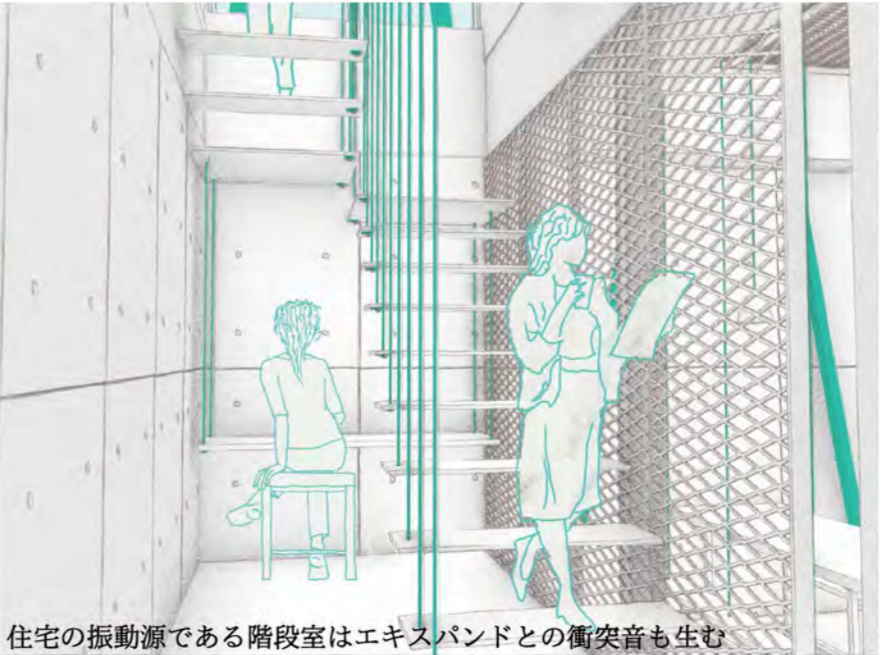
ブランコの構造体が横目に揺れるデッキを歩く



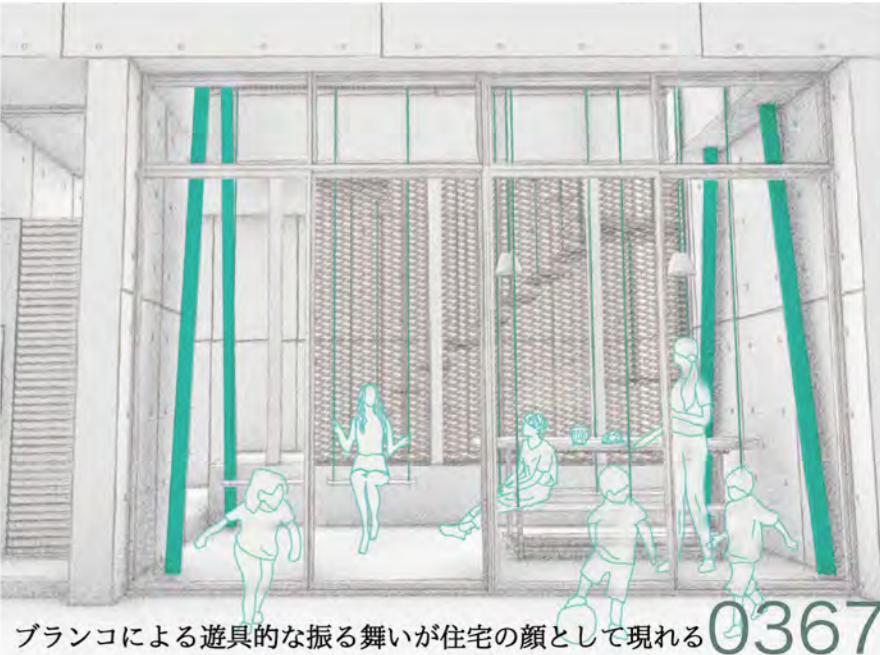
デッキの揺れに連動して浴室の水面に波紋をつくる



吊るされた棚は揺れによってカタカタと音を鳴らす



住宅の振動源である階段室はエキスパンドとの衝突音も生む



ブランコによる遊具的な振る舞いが住宅の顔として現れる